

4. 第10回外邦図研究会

日 時：2008年2月10日（日）

会 場：立正大学大崎キャンパス

第10回外邦図研究会は、立正大学大崎キャンパス・11号館8階・第6会議室で開催された。39名の参加者があり、計5件の報告とそれに対するコメント、そして参加者による総合討論がおこなわれた。それらのうち、以下には長岡正利氏（もと国土地理院）のプレゼンテーション資料、アメリカ議会図書館所蔵の日本軍による航空偵察写真一覧、大阪大学が所蔵する高木菊三郎旧蔵の内邦地図一覧を掲載する。

外邦図作成の歴史を記録に留める各種一覧図と 外邦図の『初刷』一覧

長岡正利 (国土地理院客員研究員/国土地理院OB)

今日のお話しの内容

- 外邦図作成の歴史を記録に留める「地図一覧図」
(索引図：Index map)
- 陸地測量部における外邦図初刷^(しよずり) — その行方と現状
- 外邦図初刷(約2.3万枚)の一覧 『国外地図目録』と『国外地図一覧図』
- 追補：外邦図の精度、ほか

【注】

1. 内容は、『ニューズレター』No.2の小稿内容を、図によって補完するものです。
2. " 前回の「コメント/高木菊三郎旧蔵図」の図版とも、一部重複があります。

今日のお話しの要旨 - 1/3

外邦図作成の記録としての「地図一覧図」(Index Maps)

昔の拙稿、「長岡(1993):陸地測量部外邦図作成の記録・・・、地図31-4」に記述。
2003年時点の外邦図一覧図所在については、『外邦図研究ニューズレター』No.2に。

冊子体の、まとまったものとして:

- 『北方地区地図整備目録』(参謀本部、昭和18.5:17図業)
- 『南方地域地図整備目録』(参謀本部、昭和17.12:33図業)
- 『関東軍調製・陸軍秘密 地図一覧図』(関東軍司令部、昭和16.12:11図業)
- 『支那地域兵用地図整備目録』(大本営陸軍部、昭和19.6:25図業)
- 『支那製地図一覧図』(陸地測量部、昭和11.3:13図業)

ほかに、多数の一枚刷の一覧図もある。

外邦海図を含む海図一覧図は、『水路図誌目録』(昭和19年版と22年版)
ほかに、『航空図一覧表』(参謀本部、昭和18.7:9図業)

一覧図は業務用資料のため、系統的保存の対象とはされず。
国立国会図書館でも蔵書扱いはされない。「地図図式」「作業規程」なども同様。

今日のお話しの要旨 - 2/3

陸地測量部における外邦図「初刷」 — その行方と現状

「初刷」: 当時から、印刷した総ての地図の初版は、「初刷」として、その1枚を永久保存とする規定があった。修正改版の印刷図も同じ。

「外邦図初刷」のみ、接收を免れるために、疎開先の松本市から敗戦直後に高山市の関係者宅に移した。

昭和22年に密かに稲毛に移した。三宅坂を出て以来、ここまでは開梱せず。
— 公式には「存在しない」状態がその後も継続。

その後、整理して「初刷」1組を作った。各地から移されて来た地図もあった。

昭和33年に、防衛研究所戦史室経費で、その目録(4分冊)と一覧図(4分冊)を作成。

「初刷」は、昭和40年代初めに、「色々な面倒」をおそれて外部の組織に移管。

以後、そのままの状態推移。次記の『国外地図目録』に記されたと同じ、2.3万枚。
(これが、作成された外邦図の完全なセットに相当)

— 外邦図の製図原図と印刷原図については、『外邦図研究ニューズレター』No.2 ご参照。

今日のお話しの要旨 - 3/3

外邦図初刷(約2.3万枚)の一覧

『国外地図目録』と『国外地図一覧図』

『国外地図目録』

個別図業(図名)を各1行として、縮尺・作成年次などを付す。
所属『国外地図一覧図』との対象番号を記載。

『国外地図一覧図』

既製の一覧図(またはその写真複製)を台紙に貼って、各地図の有無を表示。
一覧図がないものは手書きで作って、そこに記入。

これらの作成の経緯

昭和32年度に、防衛庁防衛研究所戦史室から、資料整理用の経費を貰って作る。
目録(4冊)と一覧図(紙版4冊)のペア。正規は5セットを作る。

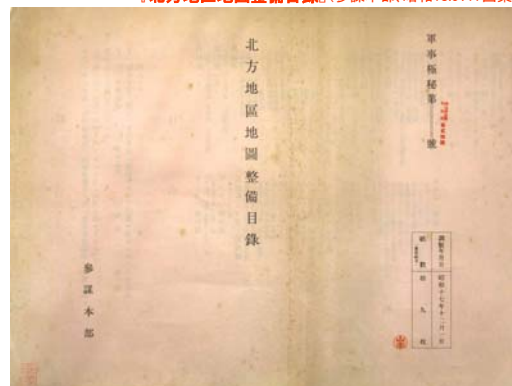
防衛研究所には1部を納めた(33年3月末)。その後、借交社にも渡った。

現在の「外邦図(初刷)」の所蔵もともにもあり。

国立国会図書館地図図室にも。(蔵書登録は無し:NDL-OPACの対象外。)

外邦図の「地図一覧図」: その一例

— 『北方地区地図整備目録』(参謀本部、昭和18.5:17図業)より



以下、『北方地区地図整備目録』からの抄録

目次

- ① 索引図(其一)
- ② 索引図(其二)
- ③ 奥地圖
- ④ 航空圖
- ⑤ 兵要地圖
- ⑥ 兵要地圖
- ⑦ 兵要地圖
- ⑧ 兵要地圖
- ⑨ 兵要地圖
- ⑩ 兵要地圖
- ⑪ 兵要地圖
- ⑫ 兵要地圖
- ⑬ 兵要地圖
- ⑭ 兵要地圖
- ⑮ 兵要地圖
- ⑯ 兵要地圖
- ⑰ 兵要地圖
- ⑱ 兵要地圖
- ⑲ 兵要地圖
- ⑳ 兵要地圖
- ㉑ 兵要地圖
- ㉒ 兵要地圖
- ㉓ 兵要地圖
- ㉔ 兵要地圖
- ㉕ 兵要地圖
- ㉖ 兵要地圖
- ㉗ 兵要地圖
- ㉘ 兵要地圖
- ㉙ 兵要地圖
- ㉚ 兵要地圖
- ㉛ 兵要地圖
- ㉜ 兵要地圖
- ㉝ 兵要地圖
- ㉞ 兵要地圖
- ㉟ 兵要地圖
- ㊱ 兵要地圖
- ㊲ 兵要地圖
- ㊳ 兵要地圖
- ㊴ 兵要地圖
- ㊵ 兵要地圖
- ㊶ 兵要地圖
- ㊷ 兵要地圖
- ㊸ 兵要地圖
- ㊹ 兵要地圖
- ㊺ 兵要地圖
- ㊻ 兵要地圖
- ㊼ 兵要地圖
- ㊽ 兵要地圖
- ㊾ 兵要地圖
- ㊿ 兵要地圖

緒言

一、本書ハ參謀本部(陸海軍)及關東軍司令部(關東軍測量部)調製ニ係ル
北方地區既成地圖ノ現況ヲ明瞭ニシ其ノ利用ニ便スラシム

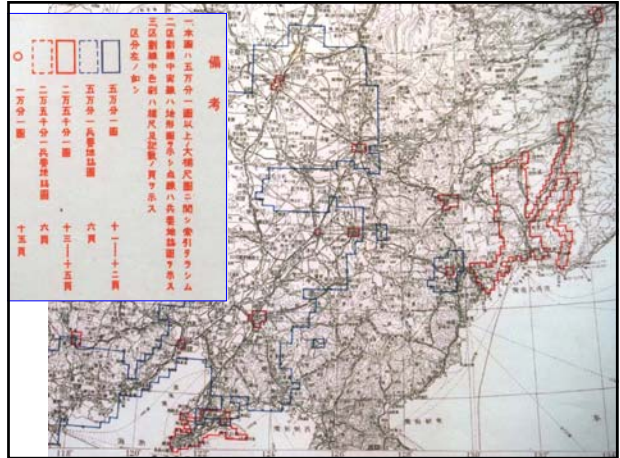
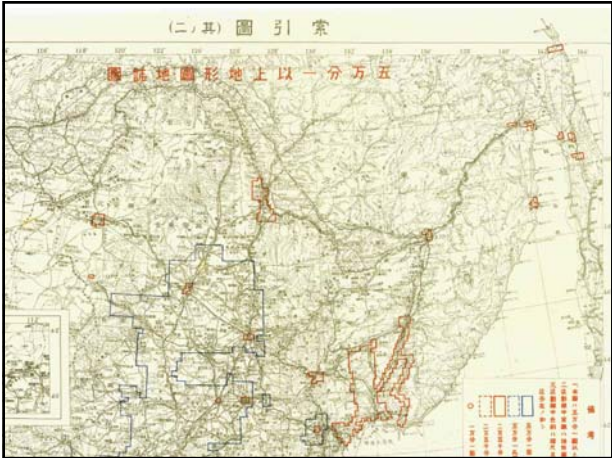
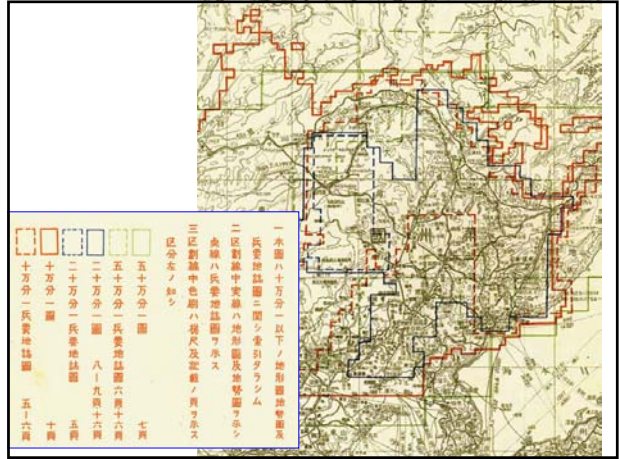
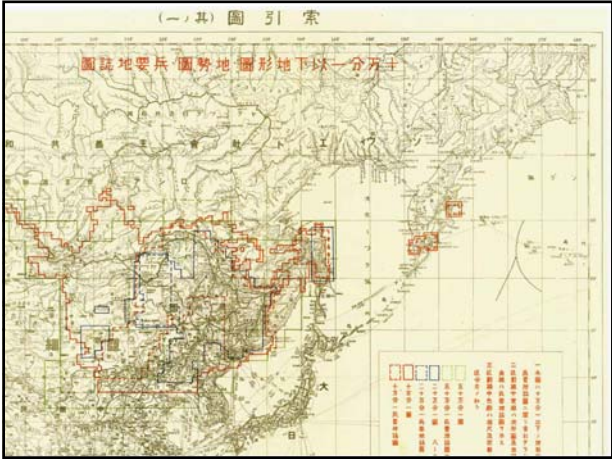
二、取捨區分及製圖年記ノ如シ

1、軍事秘密 軍事秘密 秘 撰 普通

2、圖名下方ノ數字ハ製圖年記(昭和)ヲ示ス括弧ヲ施セルモノハ大正或ハ明治トス

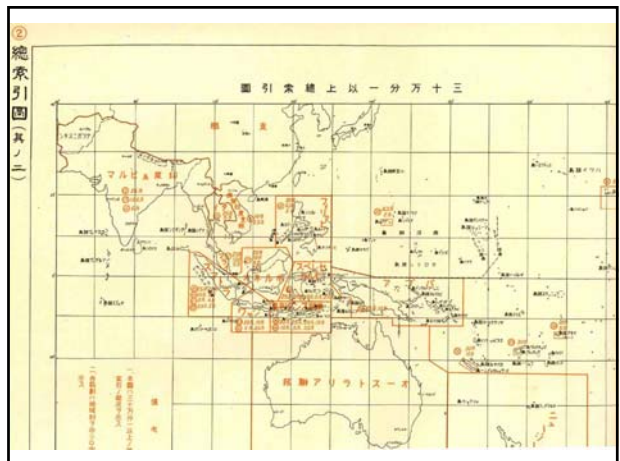
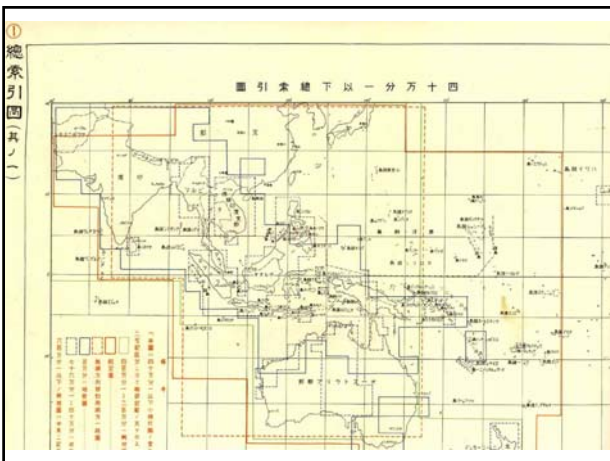
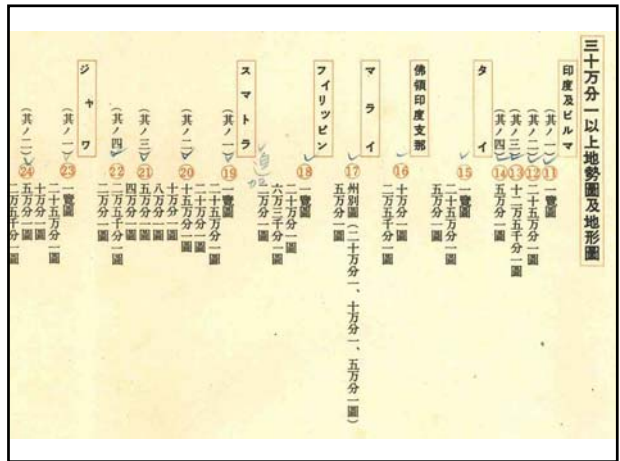
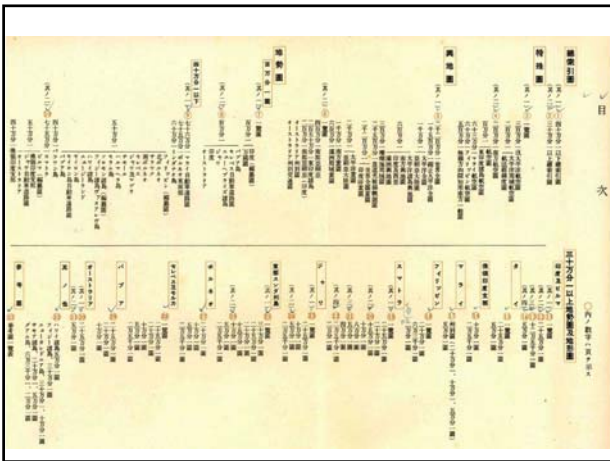
目次

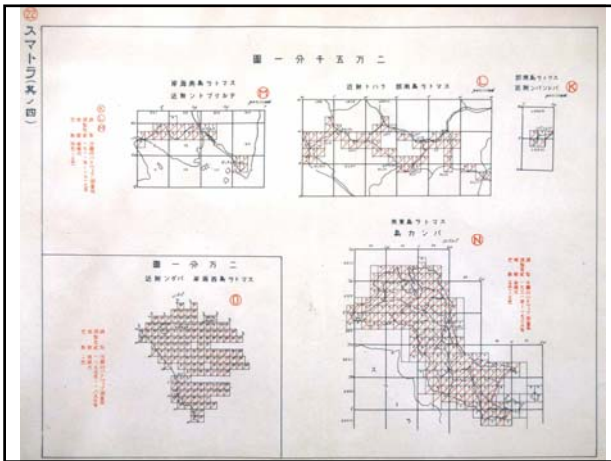
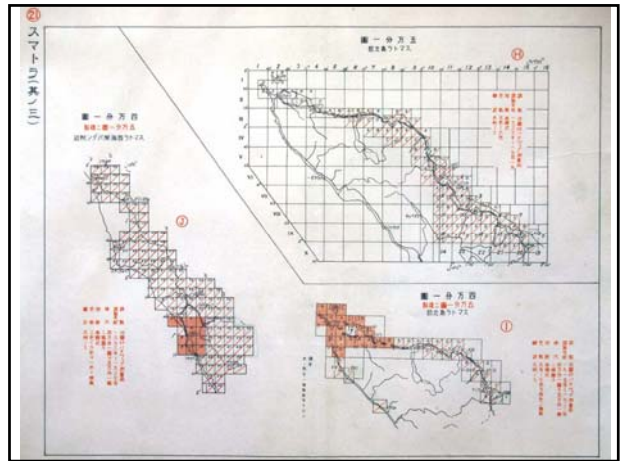
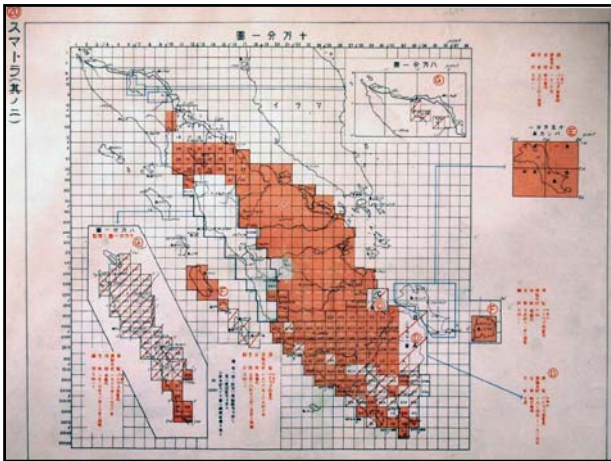
- ① 索引圖(其一)
- ② 索引圖(其二)
- ③ 奧地圖
- ④ 航空圖
- ⑤ 兵要地圖(其一)
- ⑥ 兵要地圖(其二)
- ⑦ 兵要地圖(其三)
- ⑧ 兵要地圖(其ノ一)
- ⑨ 兵要地圖(其ノ二)
- ⑩ 兵要地圖(其ノ三)
- ⑪ 兵要地圖(其ノ四)
- ⑫ 兵要地圖(其ノ五)
- ⑬ 兵要地圖(其ノ六)
- ⑭ 兵要地圖(其ノ七)
- ⑮ 兵要地圖(其ノ八)
- ⑯ 兵要地圖(其ノ九)
- ⑰ 兵要地圖(其ノ十)
- ⑱ 兵要地圖(其ノ十一)
- ⑲ 兵要地圖(其ノ十二)
- ⑳ 兵要地圖(其ノ十三)
- ㉑ 兵要地圖(其ノ十四)
- ㉒ 兵要地圖(其ノ十五)
- ㉓ 兵要地圖(其ノ十六)
- ㉔ 兵要地圖(其ノ十七)
- ㉕ 兵要地圖(其ノ十八)
- ㉖ 兵要地圖(其ノ十九)
- ㉗ 兵要地圖(其ノ二十)
- ㉘ 兵要地圖(其ノ二十一)
- ㉙ 兵要地圖(其ノ二十二)
- ㉚ 兵要地圖(其ノ二十三)
- ㉛ 兵要地圖(其ノ二十四)
- ㉜ 兵要地圖(其ノ二十五)
- ㉝ 兵要地圖(其ノ二十六)
- ㉞ 兵要地圖(其ノ二十七)
- ㉟ 兵要地圖(其ノ二十八)
- ㊱ 兵要地圖(其ノ二十九)
- ㊲ 兵要地圖(其ノ三十)
- ㊳ 兵要地圖(其ノ三十一)
- ㊴ 兵要地圖(其ノ三十二)
- ㊵ 兵要地圖(其ノ三十三)
- ㊶ 兵要地圖(其ノ三十四)
- ㊷ 兵要地圖(其ノ三十五)
- ㊸ 兵要地圖(其ノ三十六)
- ㊹ 兵要地圖(其ノ三十七)
- ㊺ 兵要地圖(其ノ三十八)
- ㊻ 兵要地圖(其ノ三十九)
- ㊼ 兵要地圖(其ノ四十)
- ㊽ 兵要地圖(其ノ四十一)
- ㊾ 兵要地圖(其ノ四十二)
- ㊿ 兵要地圖(其ノ四十三)



外邦図の「地図一覧図」：その一例

—『南方地域地図整備目録』(参謀本部, 昭和17.12.33図業)より

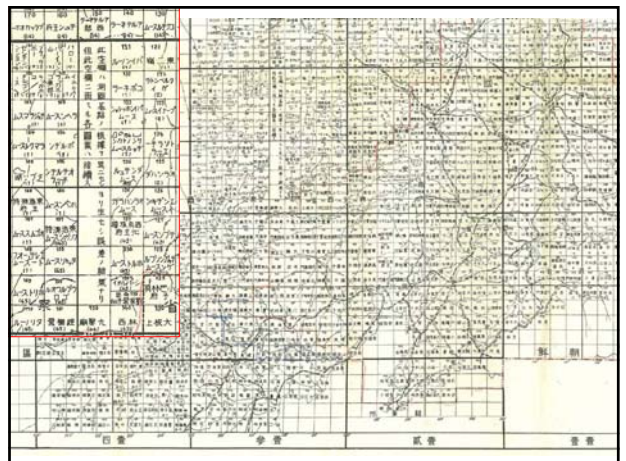
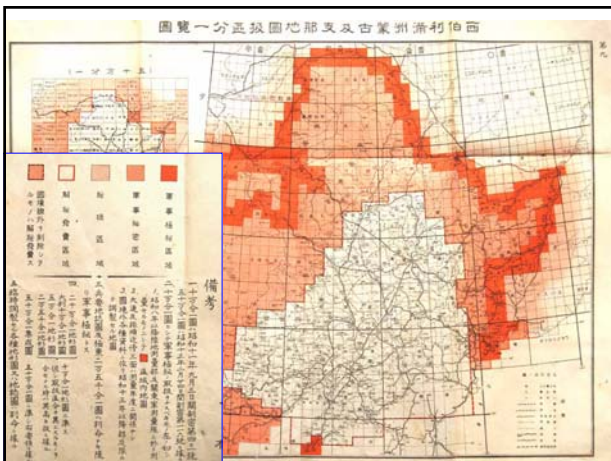


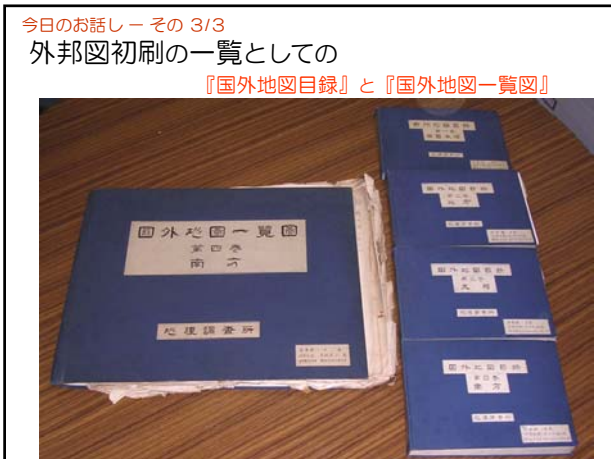
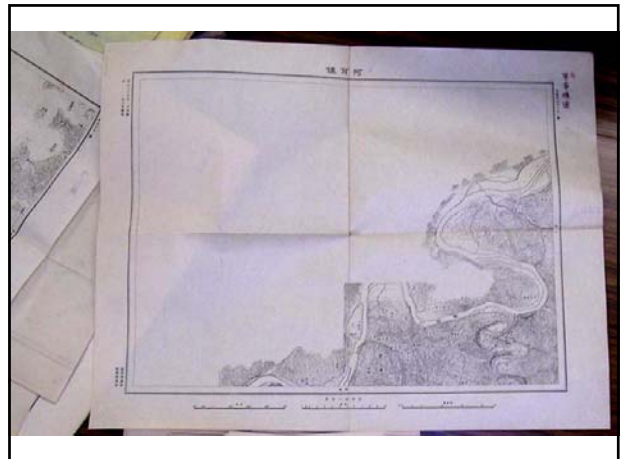


外邦図の「地図一覽図」：その一例

—『関東軍調査・地軍秘密 地図一覽図』(関東軍司令部、昭和16.12.11図業)より

第一	滿洲一覽圖
第二	五十分一圖一覽圖
第三	兵要二十萬分一圖一覽圖(一、二)
第四	十萬分一地形圖一覽圖
第五	大判十萬分一地形圖、地誌圖一覽圖(一、二)
第六	滿洲五十分一地形圖一覽圖
第七	二萬五千分一地形圖一覽圖
第八	特別圖一覽圖(集約圖、演習圖、市街圖)
第九	地圖取扱區分一覽圖
第十	地圖ノ圖部統一及訂正番號改訂要領
第十一	方眼系及利用要領
第十二	

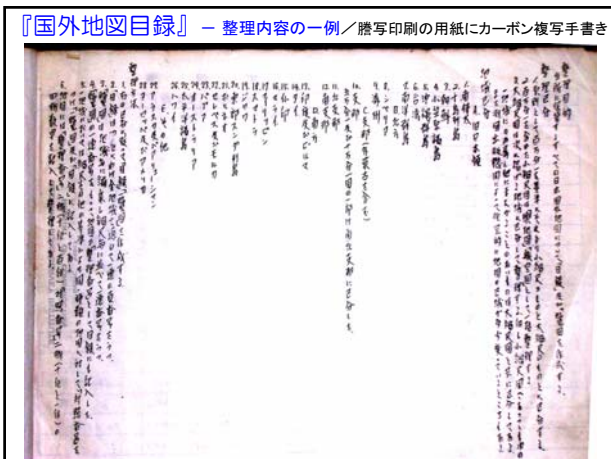




『国外地図目録』と『国外地図一覧図』
 全巻数 4巻
 調査年月日 昭和33年3月31日
 編者 地理院

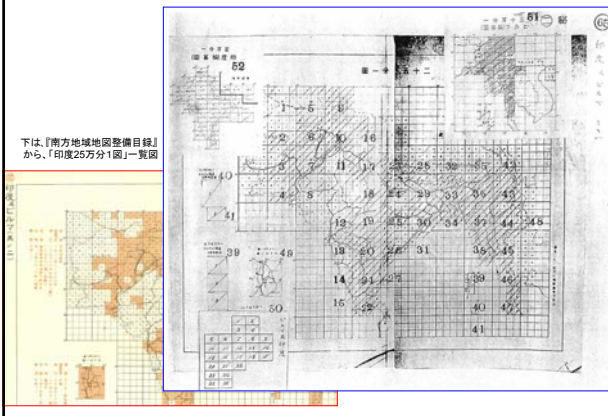
種別	目録ページ	一覧図ページ	巻数
1. 南地図	1~17	1	第一巻
2. 航空図	18~27	8~9	第一巻
3. 旧日本図	28~220	10~22	第一巻
イ. 南洋支	28~57	10~11	第一巻
ロ. 東南列島	58~86	12	第一巻
ハ. 朝鮮	87~226	13~15	第一巻
ニ. 小笠原諸島	228~232	16	第一巻
ホ. 沖縄諸島	233~245	17	第一巻
ヘ. 台湾	246~280	18	第一巻
ト. 南洋諸島	270~293	19~22	第一巻
4. 北方	284~727	23~45	第二巻
イ. シベリア	284~389	23~30	第二巻
ロ. 滿洲	390~727	31~45	第二巻
5. 支那(外蒙古含む)	728~1176	46~64	第三巻
イ. 南方	1184~1314	65~69	第四巻
ロ. インド及びビルマ	1315~1327	68	第四巻
ハ. 仏印	1328~1342	69	第四巻
ニ. マライ	1343~1357	70	第四巻
ホ. フィリピン	1358~1387	71~72	第四巻
ヘ. スマタラ	1388~1414	73~75	第四巻
ト. ジャワ	1415~1461	76~77	第四巻
チ. 東部スダネ島	1462~1474	78~79	第四巻
リ. ボルネオ	1475~1500	80~81	第四巻
ヌ. スレスレ及びモルカ	1501~1513	82	第四巻
ル. バリア	1514~1543	83~85	第四巻
ヲ. オーストラリア	1544~1557	87~88	第四巻
ワ. 太平洋諸島	1573~1575	89	第四巻
カ. ハワイ	1588~1572	89	第四巻
ア. その他	1177~1183	90~91	第四巻
イ. アラスカ及びアリューシャン	1177~1181	91	第四巻
ロ. ニューギニア及びアメリカ	1182~1183	91	第四巻

【この表は、小林先生による。】



図番号	図名	期間	年代	編者	発行所	備考	巻数	枚数	備考	防衛庁	地図	対地番号
1000	東亞大陸図(自由地)	陸地	陸地	陸地	陸地	陸地	陸地	陸地	陸地	陸地	陸地	陸地
	五ノ(一)											
	五ノ(二)											
	五ノ(三)						5					
	五ノ(四)						5					
	五ノ(五)											
	太平洋全図(海上)						8					
	縮小太平洋全図											
	五ノ(六)											
	濠洲区域地図	昭和17年					2					
	印度及西支	其ノ一										
	其ノ二						5					
	南洋群島	石	18									
	珊瑚海区域											
	アシア大陸	昭和16年					1					2
	太平洋全図											
	世界全図											

『国外地図一覧図』 - 整理内容の一例



下は、『南方地域地図整備目録』から、『印度25万分1図』一覧図

『国外地図目録』と『国外地図一覧図』



今日のお話し - 追補：外邦図の精度、ほか

満洲と支那本部を例として、外邦図の作成時期・方法による その精度

満洲

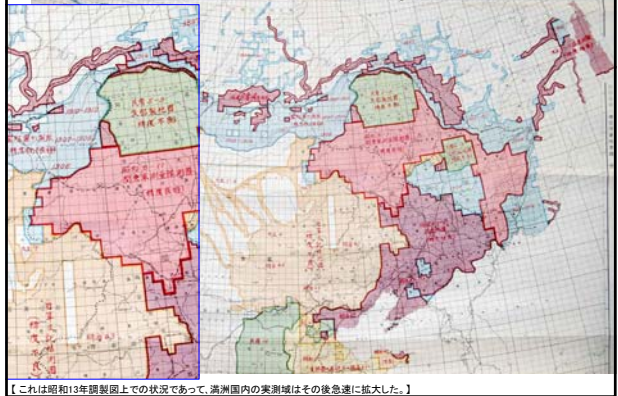
- 初期には、1800年代末～1910年代の、ロシア版の地図を翻刻利用。
(後のシベリア出兵時の占領地図、ほか。)
- 次に、中華民国製の地図(民国4～9(1915～20)年図が多い)を利用。
- 明治末～大正期:併行して、必要な地域に「迅速測図」
- " :地域によっては「目算及記帖測図」も。
- 昭和8年～関東軍測量隊による現地実測測図。
(周辺地域を除いて一般販売。)

支那本部

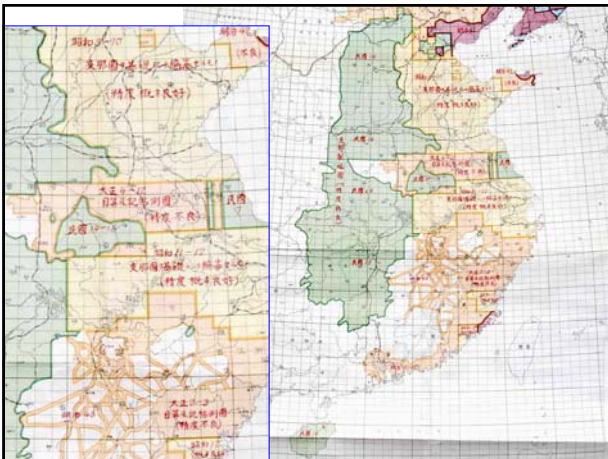
- 明治末～大正期:「目算及記帖測図」が主体
- 昭和9～12年 :東部では、民国5万図の利用(その編集による。)
- 奥地は、民国10万図(民国14～18(1925～30)年図が多い)を。

(以上、次図をご参照。)

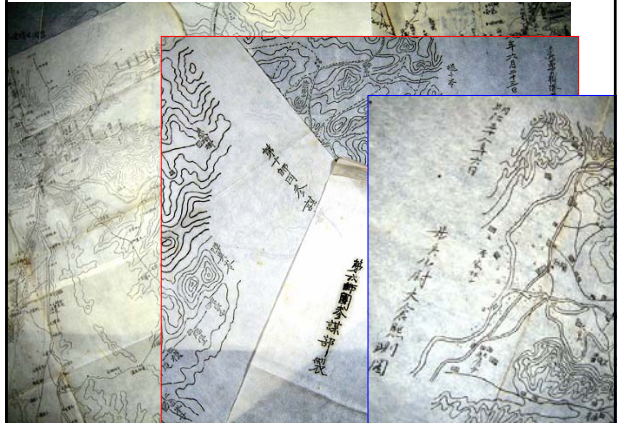
参謀本部も、外邦図の精度に大きな精粗があることを承知していた
図覧一度精圖一分万十邦外

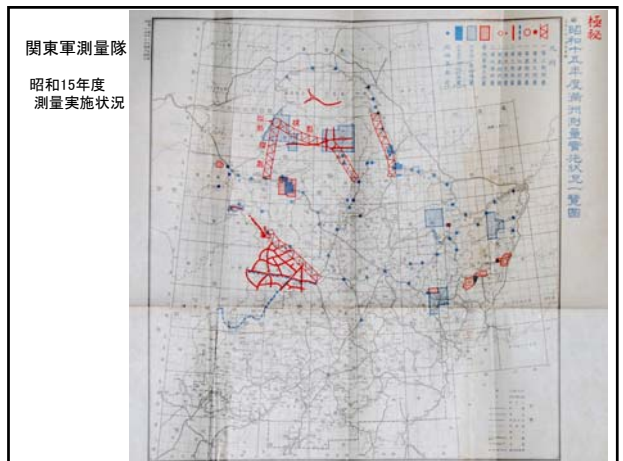
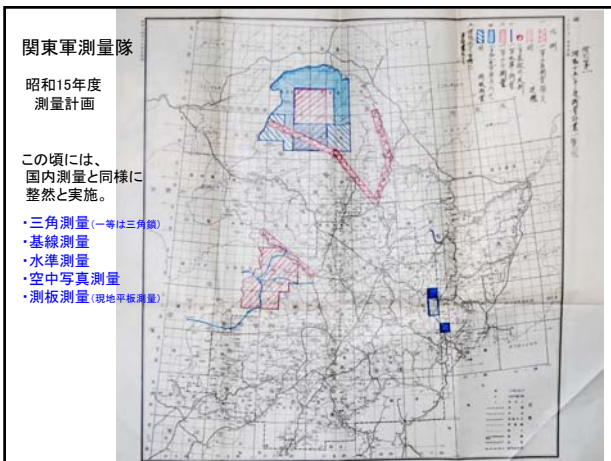
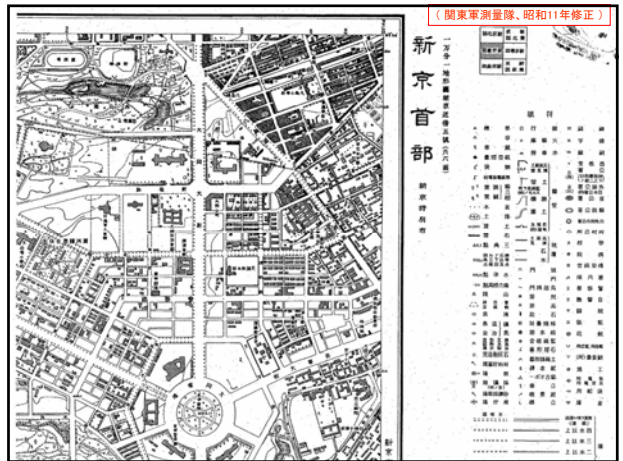
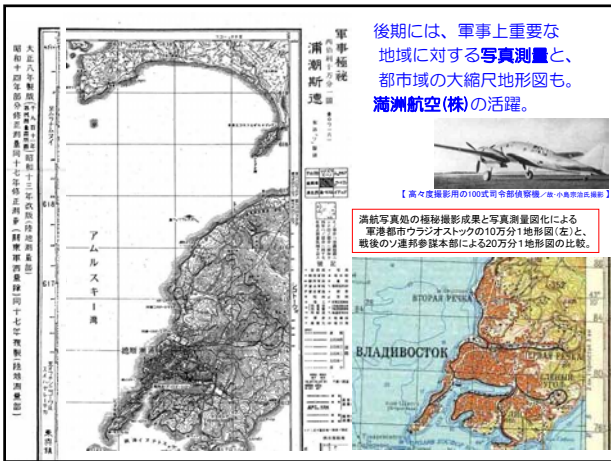
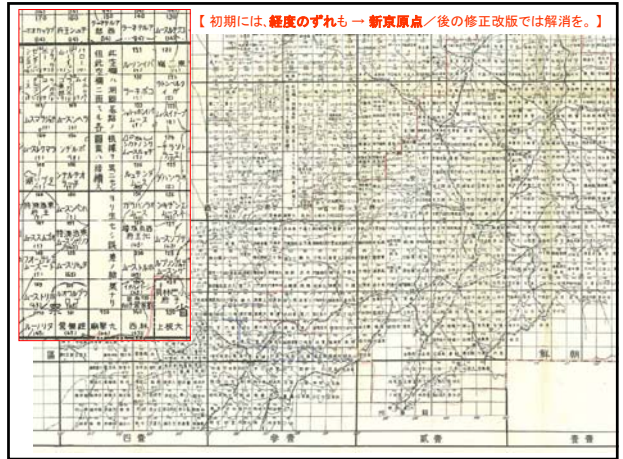


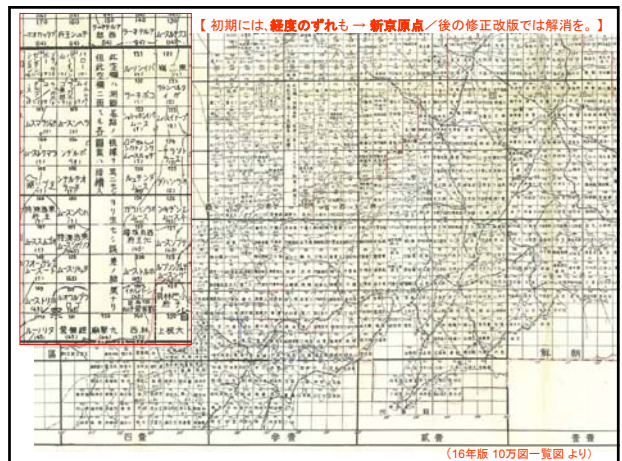
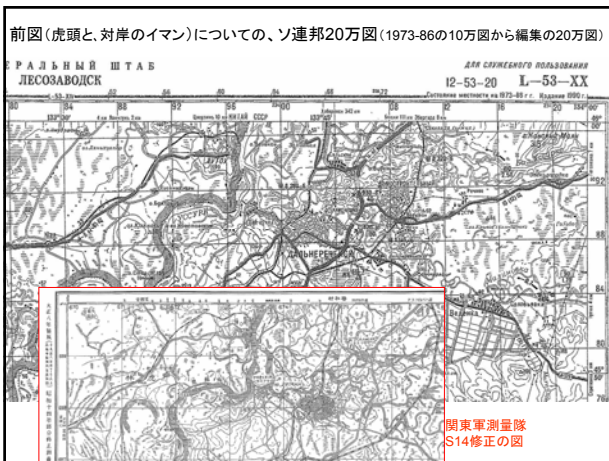
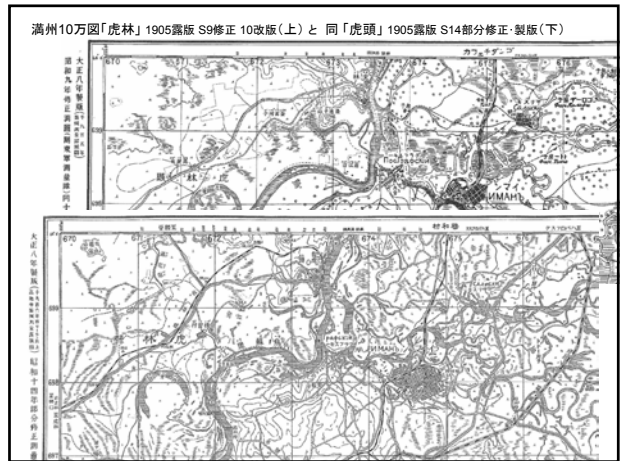
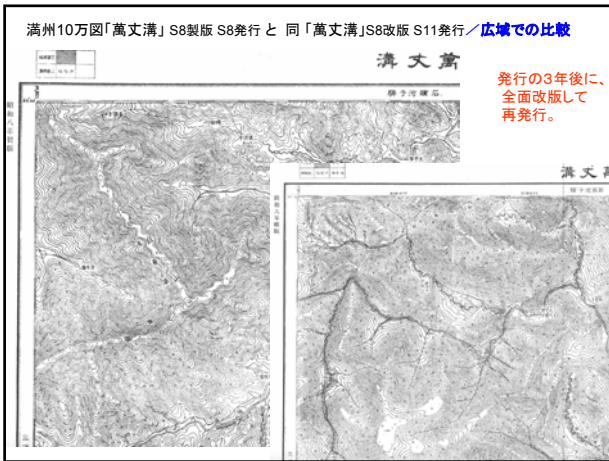
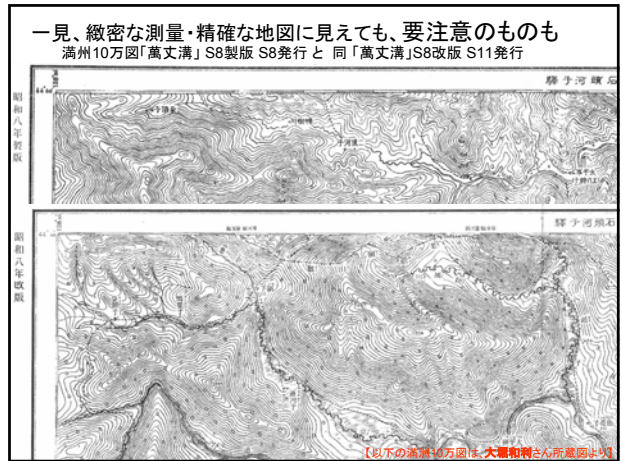
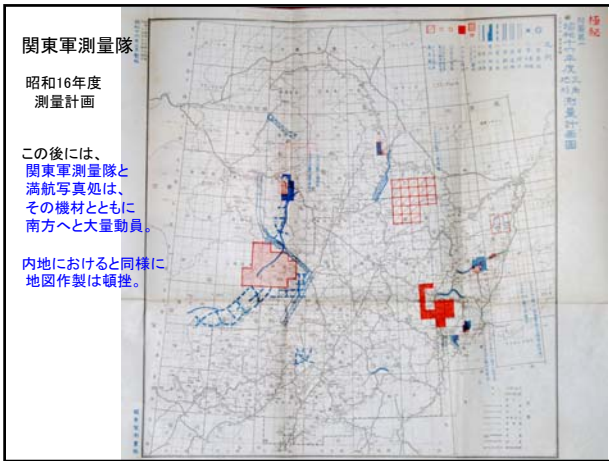
【これは昭和13年調査図上での状況であって、満洲国内の実測域はその後急速に拡大した。】

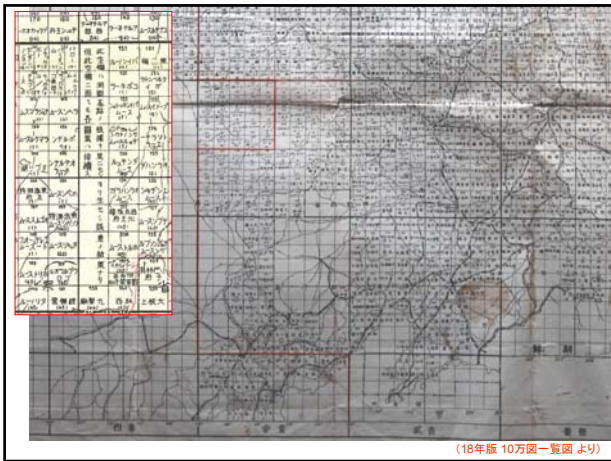


日露戦争時の秘密偵察測図の成果 (小林先生ご入手資料より)



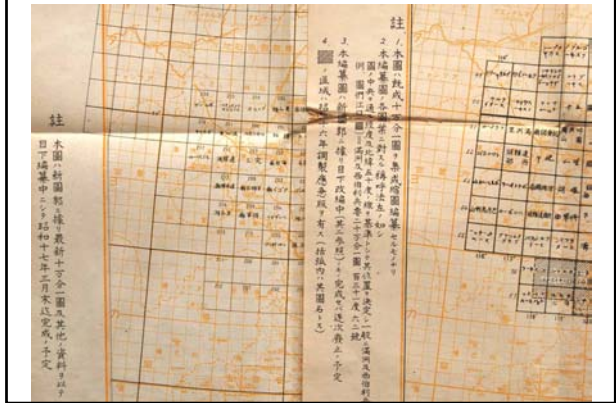






(18年版 10万国一覽圖より)

満洲国の基本図、10万分1図は精粗の差が大きいことから、全面更新を図り、20万国の調製も進めるが、途中で頓挫。



今日のお話し - 追補：「外邦図」にならなかった地図

支那地圖目録

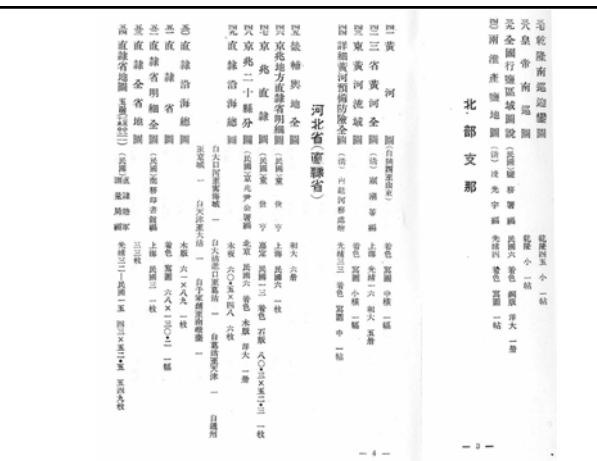
南洋洲地圖
株式會社
大連圖書館

【以下の図は、辻野民雄さん所蔵コピーより】

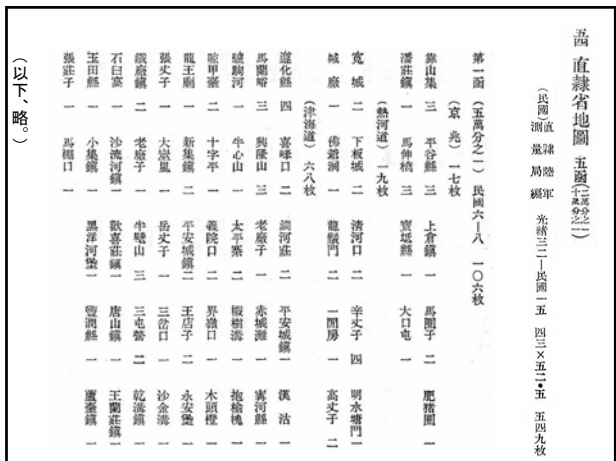
このような地図のほかに、清国・民国製の、5万・10万分1図も多い。次葉以下に、一例を。

支那地圖目録

- 世界地圖
- 一 坤輿全圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 二 地球全圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 三 亞細亞東部地圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 四 皇朝直省地圖全圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 五 皇朝州縣地圖全圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 六 皇朝全圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 七 皇朝全圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 八 支那全圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 九 支那全圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 一〇 支那全圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 一一 支那全圖 (明治二十二年四月三十日)
 - 一二 支那全圖 (明治二十二年四月三十日)



(18年版 10万国一覽圖より)

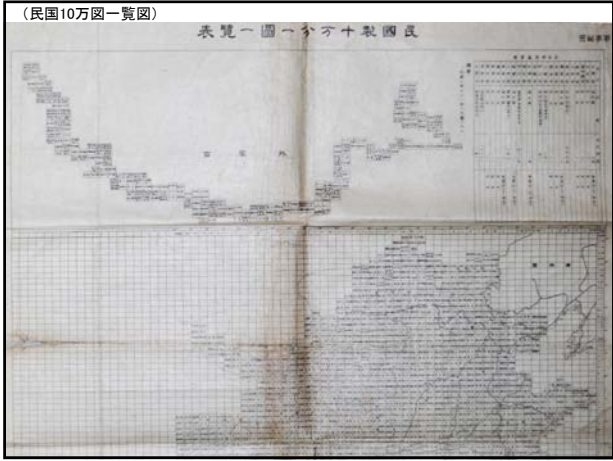


遼寧省(奉天省)

奉天省(奉天省) 遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)

遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)

遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)
遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)
遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)
遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)
遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)	遼寧省(奉天省) 遼寧省(奉天省)



第10回 外邦図研究会
2008年2月10日：立正大学(東京大崎)にて

今日は、ここまでです。

- 外邦図作成の経緯を記録に留める「地図一覽図」
- 陸地測量部における外邦図初刷^(4冊分) — その行方と現状
- 外邦図初刷(約2.3万枚)の一覽 『国外地図目録』と『国外地図一覽図』
- 追補：外邦図の精度、外邦図にならなかった地図

お聞き頂き、ありがとうございました。
この際、最後に2枚の地図を。



カラコルムでは、ここ1世紀、氷河の先端位置に変化の無いものがほとんど。: 図は、ナンガルバルット南面、山頂直下の小規模な懸垂氷河

数10年前: 印度測量局図 (1934以前)による陸測外邦図 74年前: 独・5万国 1934 現代: グーグルアース画像

アメリカ議会図書館蔵日本軍航空偵察写真について

今里悟之（大阪教育大）・池中香絵（大阪大・院）・
岡本有希子（大阪大・院）・小林 茂（大阪大）

1. 資料の調査と作業の経過

2007年9月に、今里と小林は、ワシントンのアメリカ議会図書館（Library of Congress）に所蔵されている日本軍の航空偵察写真の調査を行った。これに際しては、アメリカ議会図書館目録部（Cataloguing Division）、日本課（Japanese Section）の藤代真苗さんに終始お世話になった。

調査に際しては、パソコンとA4版のスキャナーを持参して、資料をスキャンし、日本に持ち帰った。大部分はサイズが大きく、分割してスキャンをおこなった。岡本がこれらの目録を作製し、さらに池中が目録のエクセルファイルを作成するとともに、撮影地点の特定も行った。撮影地点の特定には、Drazhnyuk A. A. et al. ed. (1999) *The World Atlas*. Moscow: Federal Service of Geodesy and Cartography of Russia を使用したが、写真に記入されている地名の多くはカタカナ表記であるため、それからローマ字による表記を推測し、*The World Atlas* の索引を検討した。ただしこれは、容易な作業ではなく、まだ地名の特定が出来ていないものが

多く残っている。

なお、2008年3月に小林がアメリカ議会図書館を再訪したときには、上記資料の不明な点を確認するとともに、新たに上記藤代真苗さんより紹介された資料について簡単な調査をおこなった。藤代さんは、2007年9月に私たちの関心を知り、類似の資料を集めて下さっていたのである。藤代さんのいきとどいたご配慮に感謝したい。

以下2007年9月に調査をおこなったものもふくめてまず関連資料の概要を示す。

2. 資料の概要

資料はすべてU21, 4261という番号を付され、複数の厚紙でつくられた箱に収められている。以下仮の記号をつけて順に述べる。

資料A：2007年9月に調査をおこなった資料で、内容は添付の目録に示している。「豪州西北部飛行場要覧」という表紙をもつ一連の台紙に貼られた写真にくわえ、他の地域に関する、やはり台紙に貼られた写真をとまなう。

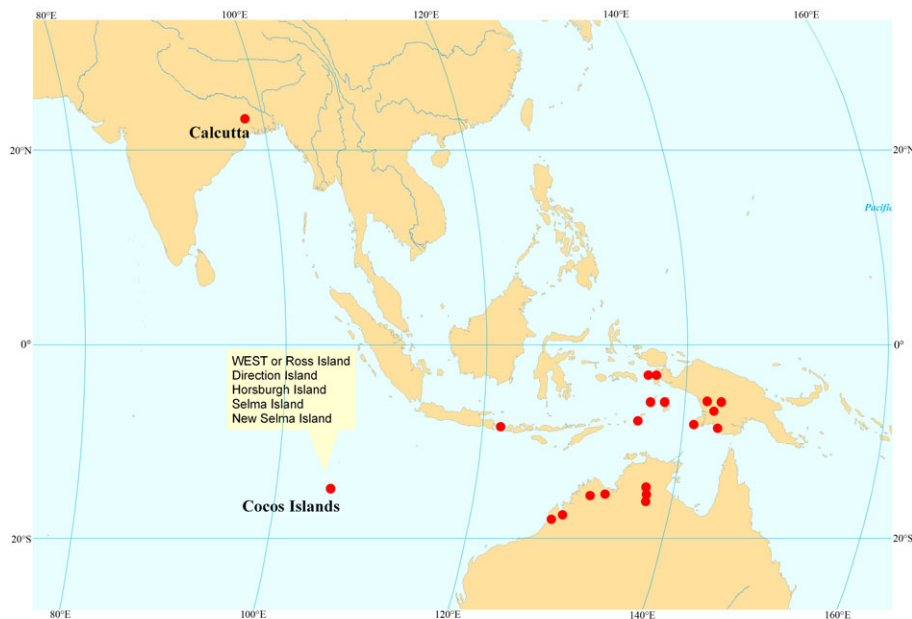


図1 撮影地点の分布

●：撮影地点

前者の表紙には中央に縦書きで「豪州西北部飛行場要覧」と記し、右には「昭和十八年二月」、左には「獨立飛行第七十中隊」と記す。32×50 cm 大の台紙の両面に写真を貼り付ける場合が多く、目録では表と裏を区別して示している。全部ではないが、表側の写真には括弧つきの番号を示している。この点から、表側と裏側では別々のシリーズの写真が貼り付けられた可能性がある。作製当初は、紐か糸で綴じられていたと考えられるが、現在はこれがなくなっており、写真が当初の順序を反映しているかどうかは、明確でない。また表紙にみえる昭和 18 (1943) 年 2 月以降に撮影されたものをかなりふくんでいるのも留意される。これらは、当初に綴じられていた「要覧」には含まれていなかったであろう。なお、撮影地点をみると、イリアンジャヤおよびその周辺の島嶼が多く、オーストラリア本土のものはすくない。この点は資料 D と比較するとあきらかである。今後は、つぎに述べる資料 B との関係性をさらに検討すべきであろう。

他方、後者はさまざまな地域の写真を台紙に貼り付けたもので、インドのカルカッタのものもふくまれる。また台紙のサイズもさまざまで、とくに Cocos 島に関するものは、「其一」、「其二」では 45×55 cm、これらの元図と考えられる 2 枚は、39.5×55 cm と大きい。また「コラカ鉱山」は、不整形で 45×40 cm である。これらのうち昭和 18 (1943) 年 2 月以降に撮影あるいは編集されたものも、のちにこのグループにくわえられたものであろう。

資料 B : 2008 年 3 月に調査したものである。やはり「豪州西北部飛行場要覧」というタイトルをもち、昭和 18 年 2 月、という日付や「獨立飛行第七十中隊」という記載も同様である。台紙に穴を空けて綴じてあるもの (ダーウィン飛行場から開始) とひもで括られているもの (カセリン飛行場から開始)、さらに綴じられていない台紙 7 枚と大型の台紙 2 枚 (ブルーム飛行場とホーランギャ飛行場の写真を貼り付ける) がある。

資料 A と資料 B との関係については、さらに資料 B の内容を精査する必要があるが、一方が他方の副本というよりは、両者は一体のもので可能性が高いと考えられる。

資料 C : 2008 年 3 月に調査したものである。やはり表紙に「豪州西北部飛行場要覧」と記し、左側に「獨立飛行第七十中隊」とあるが、右に「昭和十七年十月至十二月」とあり、資料 A や資料 B よりも早い時期のものと考えられる。最初に全 34 点の写真一覧があり、2 頁目と 3 頁目に折りたたんだ一覧図も添付している。これが納められた箱にはもうひとつ二つ折りの大型の紙があり、それにはカルカッタ (インド) の空中写真が貼られている。撮影者として渡辺中尉・阿倍中尉とあるのは、資料 A の「カルカッタ港付近」の場合 (目録参照) と同様である。

資料 D : 2008 年 3 月に調査したものである。やはり「豪州西北部飛行場要覧」というタイトルをもち、「獨立飛行第七十中隊」という記載も同様であるが、時期を「自昭和十八年十月至十二月」としている。この台紙に貼り付けられた写真の束は全部が綴じられており、最初に飛行場位置図、つぎに一覧表を載せる。全 34 枚あり、1 枚目はダーウィン飛行場、34 枚目はブルーム飛行場で、位置はいずれもオーストラリア領内と考えられる。資料 C、資料 D とともにさらに精査が必要であるが、写真の点数から、両者は基本的に同じ内容のものである可能性があるが、撮影時点も確認する必要があるであろう。

資料 E : 2008 年 3 月に調査したものである。全 3 冊で、いずれも「ダーウィン附近爆撃目標」とタイトルを示し、「獨立飛行第七十中隊」と記すほか、昭和 18 年 2 月 20 日の日付を示す。うち 1 冊には「八部之内第四号」、もう一冊には「八部之内第七号」と記され、同じものが複数部つくられたものと考えられる。

以上、資料の概要について述べたが、資料 B ~ 資料 E については、十分な調査をしておらず、今後機会を見てさらに調査したい。なお、2008 年 2 月の第 10 回外邦図研究会で、資料 A について発表したところ、今井健三氏 (水路協会) より、海上保安庁海洋情報部図書館にも類似の航空偵察写真があるとのことで、この調査も必要である。

3. 資料 A の目録について

資料 A の写真目録をつぎのように作製した。①タイトル (軍が写真に記入しているもの)、②地名の英

語表記、③国または地域の名称、④緯度経度、⑤一致する空港名、⑥サイズ(縦×横cm)⑦撮影年月日、⑧縮尺、⑨操縦者名、⑩撮影者名、⑪高度(m)、⑫備考、である。②、③、④、⑤、については地名を特定した上で位置が判明したものについてこちらで付け加えたものである。⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫については、写真に記入されているものである。ただし、これらの情報については記入されていないものが多い。撮影年月日と操縦者・撮影者名はそろって記入されている場合が殆どであるが、半数以下しか記入されていない。

4. 撮影地点の分布と撮影の特徴

地点が特定されたものについて、地図を作製しその分布を示した。東南アジアを取り巻く形で東はニューギニア、オーストラリア、西はインドのカルカッタ、インド洋のココス諸島に偵察飛行していたことがわかる。情報が少ないため時期の特徴は捉えにくいだが、確認できる最も初期のものは昭和17年7月20日にココス諸島で撮られたものである。ココス諸島にはその後も昭和18年8月にも偵察飛行してお

り、関心の高さが伺える。

また、当時の戦況と照らし合わせると、昭和17年3月に日本軍はニューギニアに上陸し、ポートモレスビーを拠点とする連合軍と激戦状態にあった。同年7月から、ニューギニア西部のイリアンジャヤ地方および西部の諸島に中心的に偵察飛行したようである。

5. 今後の課題

以上、藤代さんのご配慮により、予想外に多くの偵察写真が現存することを知ることができた。今後は資料B～資料E、さらに海上保安庁海洋情報部図書館の類似資料を調査し、日本軍の航空偵察資料について理解を深めたい。またニューギニアにおける日本軍と連合軍の戦闘を調査中の田中宏巳先生(防衛大学校)からもご指導をいただきたい。

なお、2008年2月の外邦図研究会では、空中写真からわかる海岸の潮位から、温暖化による海面上昇についても検討が可能との示唆をいただいた。この方面からも検討の可能性をさぐりたい。

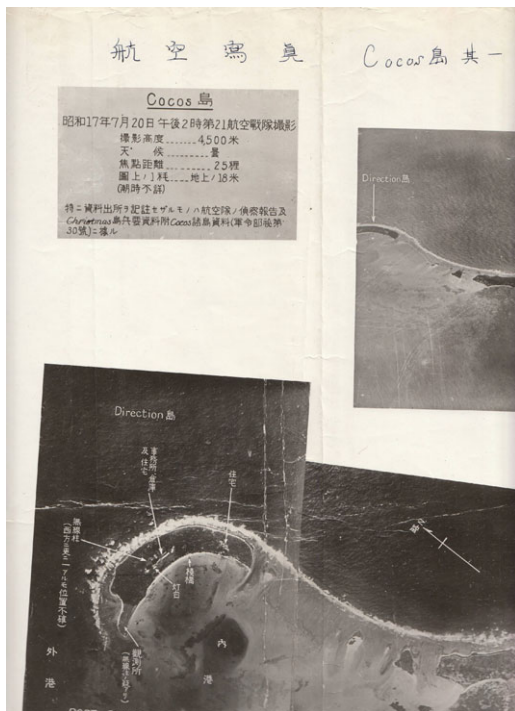


写真1 Cocos島 其一(左上部分)

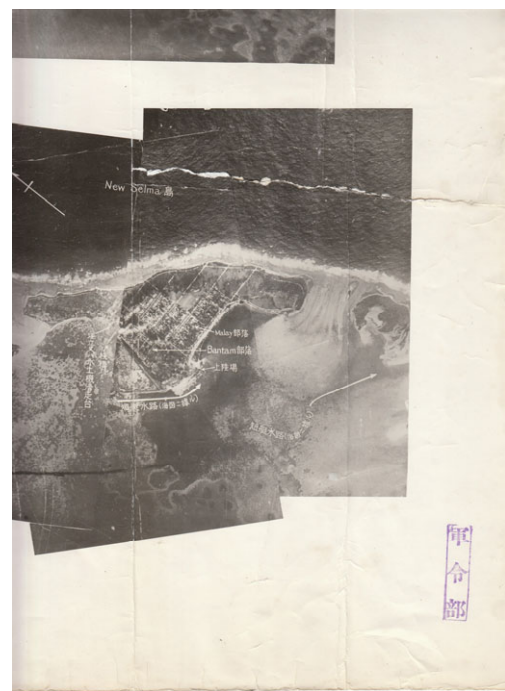


写真2 Cocos島 其一(右下部分)

表1 日本軍による航空偵察写真一覧

頁	裏/表	タイトル ※()内の数字は縮尺	英語表記	場所	緯度	経度	縦	横	撮影年月日	操縦者	撮影者	高度 (m)	備考
1	表	(1)ランゲール					10.3	14.7					
	表	(2)ツアル及ランゲール					10.3	14.7				1500	
	表	(3)ツアル市付近					10.3	14.7				500	
	表	(4)ケイ諸島ヌフロフ島東岸中部	Kai	カイ諸島			10.8	15.4				1500	
	裏	ドボ	Dobo	アル諸島	5度45分	134度13分	11.4	16.2	昭和17年7月28日	米田大尉	佐藤飛曹長	4500	
	裏	ドボ	Dobo	アル諸島	5度45分	134度13分	11.4	16.2	昭和17年7月30日	掛塚一飛	碓一飛	800	
	裏	ドボ	Dobo	アル諸島	5度45分	134度13分	11.4	16.2	昭和17年7月30日	掛塚一飛	碓一飛	800	
	裏	ドボ	Dobo	アル諸島	5度45分	134度13分	11.5	16	昭和17年7月28日	米田大尉	佐藤飛曹長	4000	
2	表	(5)ヌフロフ島東岸中部	Kai	カイ諸島			11	15.6				500	
	表	(6)ヌフロフ島海岸側	Kai	カイ諸島			11	15.6				500	飛行場適地
	表	(7)ヌフロフ島山鹿地方	Kai	カイ諸島			11	15.6				500	
	表	(8)ヌフロフ島南岸東部	Kai	カイ諸島			10.8	15.3				500	
	裏	本艦錨地					11.5	16	昭和17年7月31日	井上二飛曹	寺内一飛	1000	
	裏	本艦錨地					11.5	16	昭和17年7月31日	井上二飛曹	寺内一飛	800	
	裏	サウムラッキ	Saumulakki	タンニバル諸島	7度59分	131度20分	11.5	16	昭和17年7月31日	井上二飛曹	寺内一飛	300	
	裏	サウムラッキ	Saumulakki	タンニバル諸島	7度59分	131度20分	11.5	16	昭和17年7月31日	井上二飛曹	寺内一飛	300	
3	表	(9)ヌフロフ島南岸中部	Kai	カイ諸島			11	15.2					
	表	(10)ヌフロフ島南岸中部海岸側	Kai	カイ諸島			11	15.2					
	表	(11)ミミカ河付近	Mimika	イリアンジャヤ			11	15.2					
	表	(12)ミミカ東方部落	Mimika	イリアンジャヤ			11	15.2					
4	表	(13)ミミカ東方部落	Mimika	イリアンジャヤ			11	15.2					撮影少々不明瞭
	表	(14)ミミカ東方部落中央	Mimika	イリアンジャヤ			11	15.2					
	表	(15)ミミカ東方部落西岸海岸	Mimika	イリアンジャヤ			11	15.2					
	表	(16)ファルシュ岬	Tanjung Vals	ドラク島	8度23分	137度38分	11	15.2				1500	
	裏	ヤムール湖東側原始林					14.2	21.7				1000	
	裏	仮称:ヤムール湖					14.2	21.8				1000	

5	表	(17)ファルシュ岬東方海岸	Tanjung Vals	ドラク島	8度23分	137度38分	10.7	15.3					
	表	(18)ファルシュ岬西岸	Tanjung Vals	ドラク島	8度23分	137度38分	10.7	15.3					
	表	(19)タナメーラ付近	Tanahmerah	イリアンジャヤ	6度4分	140度16分	10.7	15.3					
	表	(20)タナメーラ市街及飛行場	Tanahmerah	イリアンジャヤ	6度4分	140度16分	10.7	15.3					
	裏	仮称: デイダ河						14	21.3				1000
	裏	仮称: オンバ河						14.2	22				500
6	表	(21)タナメーラ付近ゲルグ河支流	Tanahmerah	イリアンジャヤ	6度4分	140度16分	10.7	15.6					
	表	(22)タナメーラ付近	Tanahmerah	イリアンジャヤ	6度4分	140度16分	10	15					
	表	(23)タナメーラ北部	Tanahmerah	イリアンジャヤ	6度4分	140度16分	11	15					
	表	(24)ヤンブイケ付近						11	15.3				
	表	(25)ツシラー付近						11	15.5				
	表	(26)ナムローズ湖及付近沼澤地						11	11.5				500
	表	(27)ヤンブイケ付近						11	15				350
	表	(28)ツシラー付近(ギグル河及ジャングル)	Digul	イリアンジャヤ				11	15.7				350
	裏	ナビリ河						21.3	14.3				500
	裏	?						14.3	21.6				500
	裏	仮称: オンバ河ナビリ河合流地点						14	21.5				
	裏	仮称: オンバ河						14	21.7				500
7	表	(29)ナムローズ湖岸						11	15.5				500
	表	(30)ナムローズ湖南方						11	15.5				400
	表	(31)ナムローズ湖北方						11	15.5				350
	表	(32)?						11	15.5				
	裏	オンバ河三角州						14.3	21.6				1400
	裏	オンバ河口付近						14.3	21.6				1400
8	表	(33)メラウケ町	Merauke	イリアンジャヤ	8度29分	140度23分	10.7	15.2					
	表	(34)メラウケ海岸飛行場	Merauke	イリアンジャヤ	8度29分	140度23分	10.7	15.2					
	表	(35)メラウケ飛行場	Merauke	イリアンジャヤ	8度29分	140度23分	10.7	15.2					
	表	(36)メラウケ飛行場の(イ)滑走路	Merauke	イリアンジャヤ	8度29分	140度23分	10.7	15.2					
	裏	仮称: オンバ河						14.4	21.5				1200
	裏	仮称: ラカヒア湾、ナニサ岬		イリアンジャヤ				14.4	21.5				1400
9	表	Selma島		ココス諸島	12度6分	96度53分	11.5	16	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	200	
	表	Selma島砂湿地		ココス諸島	12度6分	96度53分	11.5	16	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	200	
	表	Selma島砂湿地		ココス諸島	12度6分	96度53分	11.5	16	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	200	
	表	Horsburgh島		ココス諸島	12度4分	96度50分	11.5	16	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	300	

10	表	Horsburgh島南岸		ココス諸島	12度4分	96度50分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	150			
	表	Direction島		ココス諸島	12度5分	96度53分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	100			
	表	Direction島		ココス諸島	12度5分	96度53分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	270			
	表	Direction島		ココス諸島	12度5分	96度53分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	200			
11	表	Direction島兵舎付近		ココス諸島	12度5分	96度53分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	170			
	表	Direction島兵舎付近		ココス諸島	12度5分	96度53分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	100			
	表	NewSelma島		ココス諸島	12度12分	96度54分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	200			
	表	NewSelma島		ココス諸島	12度12分	96度54分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	180			
12	表	NewSelma島		ココス諸島	12度12分	96度54分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	230			
	表	NewSelma島		ココス諸島	12度12分	96度54分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	250			
	表	NewSelma島		ココス諸島	12度12分	96度54分	11.5	16.1	昭和18年8月2日	山崎飛曹長	中島一飛正	100			
13	表	マタランカ飛行場<1/16000>	Mataranka	オーストラリア	14度39分	133度05分	17	21.3							
14	表	オールサインクーエル飛行場<1/15000>							16.6	21.2					
15	表	バーダム飛行場<1/15000>	Birdum						16.8	21.4					
16	表	バーダム南方五十軒飛行場<1/15000>	Birdum			15度32分	133度26分	24	38						
17	表	タリウォーター飛行場<1/15000>	DalyWaters			16度16分	133度22分	23	23.5					DALY WATERS(飛行場)	
18	表	オールドボンド飛行場<1/15000>							35.2	32.2					
19	表	ウインドハム飛行場<1/15000>	Wyndham			15度08分	128度19分	25	20					WINDHAM(飛行場)	
20	表	ドライズデール飛行場	Drysdale			14度58分	127度05分	20.5	24.8						
21	表	エリザベス飛行場<1/4070>							20.4	24.5					
22	表	ダービー飛行場<1/7000>	Derby			17度13分	123度40分	21.9	23.5					DERBY(飛行場)	
23	表	ブルーム飛行場	Broome		17度51分	122度15分	16.5	21.3					BROOME(飛行場)		
		Cocos島其之一		ココス諸島	12度6分	96度53分	11	16	昭和17年7月20日			4500	NewSelma島及びDirection島		
								12度6分	96度53分	21	31.5	昭和17年7月20日		4500	NewSelma島及びDirection島
								12度4分	96度50分	11	16	昭和17年7月20日		4500	Horsburgh島
		Cocos島其之二		ココス諸島	12度9分	96度49分	17	45	(編集昭和18年5月1日)				West or Ross島		
										11	16	(編集昭和18年5月1日)			Direction島など
		(Cocos島其之一下図)		ココス諸島				11	16	(編集昭和18年5月1日)			トレースペーパー付		
		(Cocos島其之二下図)		ココス諸島				11	16	(編集昭和18年5月1日)					
		コラカ礦山<1/8600>		スラウエシ島南部	4度2分付近	121度35分付近	41.5	45.7	昭和19年3月10日	山本中尉	鈴木一飛正	4300	Co=245° F=0.50°(モザイク図)		
		島礦山<1/4000>		スラウエシ島南部	4度12分	121度30分	34.3	20.1	昭和19年3月10日	山本中尉	鈴木一飛正	2000	F=0.50°		

		エルチヨ飛行場 (1/22368)				10.7	25.1	昭和19年1月11日	筒井少尉	朝倉中尉	8500	F0.377 70Fcs	
	一冊	カルカッタ港付近其 之一(0.25(引伸))	Calcutta	インド	22度32分	88度20分	19.9	24.5	昭和18年11月3日	安部中尉	渡辺中尉	9200	
		カルカッタ港付近其 之二(0.25(引伸))	Calcutta	インド	22度32分	88度20分	20	24.8	昭和18年11月3日	安部中尉	渡辺中尉	9200	
	一冊	メラウケ飛行場 (1/23000)	Merauke	イリアン ジャヤ	8度22分	140度26分	16	19.8	昭和19年3月10日	大原飛曹長	岩井大尉	11500	百司偵 固定 航空写真機 (K8型50粉)
		テンバサル飛行場	Denpasar	バリ島	8度39分	115度12分	11	15.2	昭和17年11月21日	長内軍曹	松田曹長	500	F0.18 2.30
		バボ市街及埠頭	Bobo	イリアン ジャヤ	2度13分	133度25分	11	15.2	昭和17年12月28日	斉藤中尉	木村中尉	300	
		バボ飛行場①	Bobo	イリアン ジャヤ	2度13分	133度25分	11	15.2	昭和17年12月18日	斉藤中尉	木村中尉	200	F0.18 260
		バボ飛行場②	Bobo	イリアン ジャヤ	2度13分	133度25分	11	15.2	昭和17年12月18日	斉藤中尉	木村中尉	200	F0.18 α 30°
	一冊	バボ飛行場③	Bobo	イリアン ジャヤ	2度13分	133度25分	11	15.2	昭和17年12月18日	斉藤中尉	木村中尉	200	F0.18 α 30°
		バボ飛行場④	Bobo	イリアン ジャヤ	2度13分	133度25分	11	15.2	昭和17年12月18日	斉藤中尉	木村中尉	200	F0.18 α 30°
		バボ飛行場付属設 備	Bobo	イリアン ジャヤ	2度13分	133度25分	11	15.2	昭和17年12月18日	斉藤中尉	木村中尉	200	F0.18 α 30°
		ファックファック (ニューギニア)	Fakfak	イリアン ジャヤ	2度51分	132度26分	11	15.2	昭和17年12月28日	美濃部曹長	塩野軍曹	300	

高木菊三郎旧蔵の内邦地図一覧図について

三木和美（大阪大・院）・亀山玲子（大阪大・学生）・
金 美英（大阪大・院）・竹内加枝（大阪大・学生）・
小林 茂（大阪大）

本稿では、高木菊三郎旧蔵の内邦地図一覧図をはじめとする資料について、その性格を簡単に検討する。目録に示すとおり、資料は全80点で、図式は明治19年製版、一覧図は明治18年製版のものから確認された。

本資料は、その多くに手書きのメモが残され、折り皺の深さなどから伺われる使い古された資料の状態から、保存用としてではなく、高木菊三郎氏によって作業用として使用されたものと考えられる。

次に資料の位置付けにうつりたい。内邦地図一覧図に関する網羅的な目録はまだ作成されていないが、既往研究では清水（1970、1993）がここで紹介する多くの資料を記載している。戦前の一覧図全46点のうち、26点は清水に記載されている資料と一致した。

記載されていなかった20点の資料の一つに、『陸地測量部発行地図区域一覧表』がある。これは大正15年に第三種郵便物認可を受けた、『キャムピング』5月号（昭和3年発行）の特別付録としてジャパン・キャンプ・クラブによって発行された地図である。「月刊『キャムピング』は登山、キャムピング、旅行、狩漁、スキー、ハイキング等アウトドア・スポーツ全般の本邦唯一の月刊雑誌」と説明が記載されている。戦前において一覧図がこのような雑誌の付録となっていたのは興味ぶかい。

また、『陸地測量部発行地図区域一覧表』（昭和16年10月修正）には、カラーの凡例が手書きされている。「要塞地帯及秘図区域」、「削除出版図製版完成」、「削除出版図停止区域」、「削除出版図印刷完成」、「軍機保護法地帯発行停止」、「全右発行未停止」の6凡例が記され、実際に地図上にも用いられている。

さて、全10点ある「測図記号」や「図式」の年紀については、「製版」「出版」「修正」「編輯製版」「測図」「印刷」「発行」「所定」が記載されている。明治19年から20年半ばまでは、参謀本部陸軍部測量局が作成し版權を所有しており、宇津木信夫・岡田栄

助・小和田順之助の3人が発行に携わっている。明治20年から大正7年にかけては、陸地測量部が作成し、陸地測量部が著作権を所有し、印刷兼発行者になっている。縮尺に関しては、2万分1、5万分1、20万分1が確認され、図式の対象地域には廣嶋、岡山、名古屋があった。

全70点ある「一覧図」や「一覧表」については、「製版」「製図製版」「測図」「修正測図」「修正」「再修」「修正再版」「調製」「調」「更改出版」「印刷発行」「訂正」「現在」の年紀が記載されている。

この間、多様な一覧表（図）の発行者・販売者が見受けられ、発行者によって大きく3つの時期に分けることができるのではないかと考える。まず、明治20年から29年までの時期は、岡田栄助・小和田順之助・宇津木信夫を中心として一覧図が発行されていた。次に、明治41年から昭和16年頃までの時期は、小林又七（川流堂）が、昭和20年頃から52年にかけての時期は、日本地図共販（株）・（株）武揚堂・内外地図（株）が中心となって地図を販売していたと推測される。昭和7年・11年に「軍事教育会」や「軍人会館出版部」が関わっていることから、次第に戦時色が強くなっていった様子がうかがわれる。戦後、大百貨店の一つである松坂屋が地図の販売代理店を務めていたことも興味深い。

参考文献

- 清水靖夫「地図一覧図について—地図資料としての—」
地図8-2：17-24，1970。
清水靖夫「地図一覧図について—陸地測量部～地理調査所発行地図の索引類—」地図31-4：2-11，1993。

表1 大阪大学蔵 高木菊三郎旧蔵 内邦図一覽(図式も含む)

No.	タイトル	年紀	作成	発行	定価	サイズ(行×ヨコ)cm
1-01	測図記号	製版 明治19年	作成 版權所有 参謀本部陸軍部測量局			43.5×57.2
1-02	測図記号	製版 明治19年 出版 明治20年8月28日	作成 版權所有 参謀本部陸軍部測量局	発行 宇津木信夫/ 岡田栄助/小和田順之助		46.0×58.0
1-03	測図記号	製版 明治19年 出版 明治20年9月28日	作成 版權所有 参謀本部陸軍部測量局	発行 宇津木信夫/ 岡田栄助/小和田順之助		42.9×58.2
1-04	二万分一地形図図式	測図 明治19年 製版 明治21年 明治25年 印刷 明治25年11月24日 発行 明治25年11月29日 所定 明治24年	作成 大日本帝国 陸地測量部	印刷兼発行者 著作権所有 陸地測量部	8銭5厘	45.8×57.8
1-05	仮製二万分一地形図記号	製版 明治20年 出版 明治20年8月26日	作成 版權所有 大日本帝国参謀本部 陸軍部測量局	発行所 宇津木信夫/岡 田栄助/小和田順之助		44.6×58.0
1-06	輯製二十万分一図 図式	編輯製版 明治20年 出版 明治20年9月28日 修正 明治21年7月	作成 版權所有 陸地測量部	発行所 宇津木信夫/岡 田栄助/小和田順之助		46.1×57.9
1-07	山岡(五万分一地形図岡山及丸 亀一号)	測図 明治四十何年 製版 明治四十何年	作成 大日本帝国 陸地測量部			40.6×50.1
1-08	名古屋〔二十万分一帝国図 図 式〕	製版 明治何年 〔明治33年式〕	作成 大日本帝国 陸地測量部			37.7×48.3
1-09	二十万分一帝国図 図式	製版 大正6年 印刷 大正7年2月25日 発行 大正7年2月28日	作成 大日本帝国 陸地測量部	著作権所有印刷兼発行者 大日本帝国陸地測量部	25銭	
1-10	地形図 図式(廣嶋)	測図 大正何年 制定 大正6年 製版 大正7年 印刷 大正7年5月25日 発行 大正7年5月30日	作成 大日本帝国 陸地測量部	著作権所有印刷兼発行者 陸地測量部		
1-11	第一軍管地方 二万分一迅速測 図一覽表	製版 明治20年	版權所有 参謀本 部陸軍部測量局		5銭	43.8×55.8
1-12	第一軍管地方 二万分一迅速測 図一覽表	製版 明治20年 修正 明治21年1月				41.4×50.8
1-13	第一師管地方 二万分一迅速測 図一覽表 五十万分一之尺	製版 明治20年 出版 明治21年4月25日 修正再版 明治21年7月	版權所有 陸地測 量部		7銭	45.9×58.0
1-14	第一師管地方 二万分一迅速測 図一覽表 五十万分一之尺	製版 明治20年 修正再版 明治21年 再修 明治28年 印刷発行 明治28年2月28 日	版權所有 印刷者 陸地測量部	発行者 岡田栄助/小和 田順之助/河村隆實/ 宇津木信夫/川勝鏗太 郎	8銭	46.4×57.5
1-15	第四軍管地方 假製二万分一地 形図一覽表 五十万分一之尺	製版 明治20年	版權所有 参謀本 部陸軍部測量局		2銭3厘	40.4×28.0
1-16	輯製二十万分一図一覽図 五百 万分一之尺	明治20年6月	版權所有 参謀本 部陸軍部測量局		5銭 4銭5 厘	44.2×55.8
1-17	輯製二十万分一図一覽図 五百 万分一之尺	明治20年6月 修正 明治21年1月 出版 明治21年4月25日	版權所有 参謀本 部陸軍部測量局	発行所 宇津木信夫/岡 田栄助/小和田順之助	7銭	46.2×57.7
1-18	輯製二十万分一図一覽図 五百 万分一之尺	製版 明治18年 修正 明治21年1月 出版 明治20年8月26日	版權所有 参謀本 部陸軍部測量局	発行所 宇津木信夫/岡 田栄助/小和田順之助		43.0×58.0

1-19	輯製二十万分一図一覽図 五百 万分一之尺	製図製版 明治18年 出版 明治20年6月16日 修正 明治23年 更改出版 明治23年6月27 日	版權所有 陸地測 量部	発行所 岡田栄助／河村 隆實／小和田順之助／ 山下督明／宇津木信夫		45.9×58.0
1-20	輯製二十万分一図一覽図 五百 万分一之尺	製図製版 明治18年 修正 明治23年 再修 明治25年 印刷発行 明治27年12月 28日	陸地測量部	発行者 岡田栄助／小和 田順之助／河村隆實／ 宇津木信夫／川勝鏗太 郎	9銭	46.0×58.0
1-21	東海道中部〔正式〕地形図一覽 表 五十万分一之尺	製版 明治22年 出版 明治22年6月29日	日本帝国陸地測量 部			43.0×50.5
1-22	東海道中部 地形図一覽表 五 十万分一之尺〔東海道中部 二 万分一地形図一覽表 全〕	製版 明治22年 再版 明治23年 印刷発行 明治29年5月1日	印刷者 陸地測量 部	発行者 岡田栄助／小和 田順之助／河村隆實／ 宇津木信夫／川勝鏗太 郎		43.5×55.0
1-23	東海道中部 地形図一覽表	製版 明治22年 出版 明治22年6月29日 修正 明治24年 更改出版 明治24年3月31 日	陸地測量部	発行所 岡田栄助／河村 隆實／小和田順之助／ 山下督明／宇津木信夫		44.8×55.5
1-24	東海道西部及畿内近傍 二万分 一地形図一覽表 五十万分一之 尺	製版 明治24年 修正再版 明治26年 出版 明治25年1月28日 印刷 明治26年5月29日	版權所有 印刷者 陸地測量部	発行者 岡田栄助／ 小和田順之助／河村隆 實／宇津木信夫／川勝 鏗太郎	7銭	46.0×56.0
1-25	二万分一地形図一覽表 本州中 部 第四号	製版 明治34年 印刷 明治35年3月25日 発行 明治35年3月30日	著作権所有印刷兼 発行者 陸地測量 部		8銭5厘	46.0×57.5
1-26	東海道西部及畿内近傍 五十 万分一之尺	製版 明治24年 修正 明治28年 印刷 明治28年9月25日 発行 明治28年9月30日	印刷者 陸地測量 部	発行者 岡田栄助／ 小和田順之助／河村隆 實／宇津木信夫／川勝 鏗太郎		44.0×55.0
1-27	五万分一地形図一覽表 中部 第二号	製版 明治29年 印刷 明治33年3月25日 発行 明治33年3月30日	著作権所有印刷兼 発行者 陸地測量 部		8銭5厘	45.8×57.6
1-28	五万分一地形図二十万分一帝国 図 同輯製図及百万分一東亜輿 地図発行区域一覽図 〔地形図及迅速測図発行区域一 覽図〕	製版 明治42年9月 修正改版 明治43年9月	大日本帝国陸地測 量部 〔印刷兼発行者 参謀本部構内陸地 測量部〕	〔地図販売元 川流堂 小林又七地図部〕		45.2×60.0
1-29	陸地測量部出版地図目録(第37 回)	調 明治43年3月31日 印刷 明治43年3月31日	印刷者 陸地測量 部 刊行 陸地測量部	販売元 小林又七		33.0×57.2
1-30	二万分一地形図発行区域一覽図	製版 明治42年9月	陸地測量部			45.1×55.6
1-31	陸地測量部御認可 陸地測量部 御出版地図一覽表	調 明治41年6月		販売者 西東書房 七條 愷		48.0×63.5
1-32	陸地測量部御出版地図一覽表	調 明治41年5月30日		販売者 兵林館主 柴田 源左衛門		39.3×54.9
1-33	陸地測量部出版地図区域一覽図	製版 大正3年3月	印刷発行者 陸地 測量部	販売者 兵材館 柴田源 蔵／西東書房 七條愷／ 厚生堂 相澤富蔵／川流 堂 小林又七／軍事教育 会 高橋静虎／書報社 星野錫		66.0×58.8
1-34	五万分一地形図一覽表 中部 第二号 〔大正3年3月 五万分一地形図 一覽表 本州中西部及四国〕	製版 明治29年 修正 大正3年3月 印刷 大正3年3月25日 発行 大正3年3月30日	印刷発行者 陸地 測量部		7銭5厘	46.2×58.1
1-35	五万分一朝鮮地形図一覽図	製版 大正4年6月				60.1×39.4

1-36	陸地測量部発行地図区域一覧表 (一万分一・二万分一・二万五千分一地形図及百万分一東亞輿地図) 〔陸地測量部出版地図区域一覧図 五万分一地形図及諸朝鮮地形図)付二十万分一地図〕	訂正 大正7年6月		発行 朝鮮総督府土地調査局測量陸地測量部／ 販売 川流堂本店 小林又七	3銭	54.0×78.7
1-37	陸地測量部発行地図区域一覧表 〔陸地測量部発行地図区域一覧表《一万分一・二万分一・二万五千分一・地形図及百万分一東亞輿地図》〕	訂正 大正8年9月		〔販売 川流堂本店 小林又七〕		54.6×78.6
1-38	陸地測量部御発行地図区域一覧図 五十万分一・二十万分一・五万分一(朝鮮ヲ除ク) 〔一万分一 二万分一 二万五千分一 百万分一 地形図一覧(本表二分數ヲ付記セサルモノハ総テ二万分一トス)〕	改正 大正10年6月 印刷 大正10年6月1日 発行 大正10年6月5日		翻刻発行兼印刷者 武揚堂 小島棟吉		39.7×54.2
1-39	陸地測量部出版地図区域一覧図 一万分一・二万分一・二万五千分一地形図 〔陸地測量部出版地図区域一覧図 五万分一地形図及二十万分一・五十万分一・百万分一諸地図〕	製版 大正5年3月 改版 大正10年6月 修正 大正11年9月	印刷兼発行者 陸地測量部			65.5×90.6
1-40	陸地測量部発行地図区域一覧表 《一万分一・二万分一・二万五千分一地形図及百万分一東亞輿地図》 〔陸地測量部発行地図区域一覧表〕	〔訂正 大正11年4月〕		販売 川流堂 小林又七	10銭	54.7×78.7

註:〔 〕は裏面に記載されていた事項

表2 大阪大学蔵 高木菊三郎旧蔵 内邦図一覧図

No.	タイトル	年紀	作成	発行	定価	サイズ(行×ヨコ) cm
2-01	陸地測量部発行地図区域一覽表 一万分一・二万分一・二万五千分一地形図及百万分一東亜輿地図	改版 大正14年11月		陸地測量部発行地図販売店 神戸書店 神戸國太郎	10銭	54.7×79.0
2-02	陸地測量部御発行地図区域一覽図 五十万分一・二十万分一・五万分一(朝鮮ヲ除ク) [一万分一 二万分一 二万五千分一 百万分一 地形図一覽]	改正 大正15年8月 〔印刷 大正15年8月1日 発行 大正15年8月15日〕		翻刻発行兼印刷者 武揚堂 小島棟吉 地図元賣捌所 武揚堂書店 販売代理店 島田書店	[10銭]	39.7×54.3
2-03	陸地測量部発行地図目録	昭和8年9月末日現在 印刷 昭和8年11月15日 発行 昭和8年11月20日	著作権所有兼発行者 陸地測量部	印刷者 小林又七 印刷所 陸軍省構内 小林又七印刷所		26.5×19.0
2-04	陸地測量部出版地図区域一覽図 一万分一・二万分一・二万五千分一地形図、十万分一・百万分一・二百万分一諸地図 〔陸地測量部出版地図区域一覽図(五万分一地形図 二十万分一・五十分分一諸地図)〕	製版 大正15年 修正 昭和2年3月	印刷兼発行者 陸地測量部	つるや書		74.8×105.0
2-05	五万分一地形図・各種都市近郊図二十万分一帝国図及輯製図・十万分一・五十万分一・百万分一・二百万分一雜図 陸地測量部発行地図区域一覽表 〔陸地測量部発行地図区域一覽表《一万分一・二万分一・二万五千分一・地形図及百万分一東亜輿地図》〕	大正15年12月9日第三種郵便物認可 昭和3年5月1日発行(71号)5月号		発行所 東京丸ビル ジャパン・キャンプ・クラブ 〔発売 川流堂本店 小林又七〕	[10銭]	54.6×79.0
2-06	陸地測量部発行地図区域一覽表 五万分一地形図・各種近郊図 二十万分一帝国図及輯製図・十万分一・五十万分一・百万分一・二百万分一雜図 〔參謀本部陸地測量部発行地図区域一覽表《一万分一・二万分一・二万五千分一・地形図及百万分一東亜輿地図》〕	[昭和7年5月現在]		[川流堂本店 小林又七／支店 小林又七朝鮮地図部／出張店 小林又七京都出張店]	[10銭]	54.2×79.0
2-07	陸地測量部発行地図区域一覽図 五万分一・二万五千分一・一万分一地形図、三角及水準測量成果表	製版 昭和6年9月 修正 昭和7年3月 昭和7年3月末日現在	印刷兼発行者 陸地測量部	発売元 軍事教育会		109.0×78.3
2-08	陸地測量部発行地図区域一覽図 二万分一地形図・編纂図・特殊図	昭和9年9月現在 製版 昭和9年9月	印刷兼発行者 陸地測量部			109.7×78.0
2-09	陸地測量部発行地図区域一覽図 二万分一地形図・編纂図・特殊図	昭和11年3月末日現在 製版 昭和11年4月	印刷兼発行者 陸地測量部	販売元 川流堂 小林又七／軍事教育会 高橋蔵男／武揚堂 小島棟吉／成武堂 横尾民蔵／つるや 岸 他丑／軍人会館出版部		108.5×78.5
2-10	陸地測量部発行地図区域一覽表《一万分一 二万五千分一 地形図及百万分一東亜輿地図》	調 昭和12年4月		小林川流堂		53.8×78.4
2-11	陸地測量部発行地図区域一覽表(五万分一地形図・各種近郊図 二十万分一帝国図及輯製図 十万分一・五十万分一・百万分一・二百万分一雜図)	調 昭和12年4月		川流堂 小林又七	10銭	54.6×78.2
2-12	二十万分一帝国図一覽表	製版 明治39年 修正 昭和12年4月				46.0×58.0

2-13	陸地測量部発行地図区域一覽図 五 万分一・二万五千分一・一万分一 地形図 〔陸地測量部発行地図区域一覽図 編纂図・特殊図・満州国・之部〕	昭和16年9月末日現在 修正 昭和16年10月	印刷兼発行者 陸 地測量部			108.5× 76.2
2-14	陸地測量部発行地図区域一覽図 編 纂図・特殊図・満州国・之部 〔陸地測量部発行地図区域一覽表 五万分一・二万五千分一・一万分一 地形図〕	昭和16年3月末日現在 製版 昭和16年4月	印刷兼発行者 陸 地測量部			108.8× 76.3
2-15	陸地測量部発行地図区域一覽表《一 万分一 二万五千分一・地形図及百 万分一東亜輿地図》 〔陸地測量部発行地図区域一覽表 五万分一地形図・各種近郊図 二十 万分一帝国図及輯製図 十万分一・ 五十分分一・百万分一・二百万分一 雜図〕	調 昭和16年2月		川流堂 小林又七	10銭	54.5×78.2
2-16	五万分一地形図一覽表 秘 〔二万五千分一地形図一覽表／百 万、五十万、二十万及一万分一図一 覽表〕	製版昭和19年	参謀本部			54.4×76.5
2-17	北海道本州四国及九州地図一覽図 其ノ一(五万分一) 〔有明 秘 二万五千分一地形図松本 近傍十二号〕	調製 昭和20年10月 〔測図 明治43年 修正測図 昭和6年〕	内務省地理調査所 〔大日本帝国陸地 測量部〕			46.1×58.0
2-18	内務省地理調査所発行地図一覽図	昭和21年8月	内務省地理調査所		50銭	46.3×57.7
2-19	内務省地理調査所発行地図一覽図 五万分一地形図	昭和21年12月	内務省地理調査所	内務省地理調査所発行 地図元売捌所 地図共販 (株)		45.6×57.2
2-20	地理調査所 地図一覽図 五万分一 地形図 二十万分一地勢図〔二万五 千分一地形図〕	昭和23年9月	地理調査所		5円	46.1×57.3
2-21	地理調査所 地図一覽図 五万分一 地形図 二十万分一地勢図〔二万五 千分一地形図〕	昭和24年9月	建設省地理調査所		5円	46.1×57.9
2-22	地理調査所 地図一覽図 五万分一 地形図 二十万分一地勢図〔二万五 千分一地形図〕	昭和26年11月現在	印刷兼発行者 建 設省地理調査所	元売捌店 日本地図共販 (株)／(株)ぶよお堂／内 外地図(株)		43.8×57.0
2-23	地理調査所 地図一覽図／地質調査 所発行 五十分分一・五万分一・二万 五千分一地質図一覽表	昭和27年6月現在	印刷兼発行者 建 設省地理調査所	元売捌店 日本地図共販 (株)／(株)ぶよお堂／内 外地図(株)		45.9×57.9
2-24	地理調査所発行 地図一覽図	昭和29年3月現在	印刷兼発行者 建 設省地理調査所	発売元 (株)ぶよお堂		45.6×56.6
2-25	地理調査所発行 地図一覽図 五十分分一地形図／二十万分一地 勢図／五十分分一市町村界素図 〔二万五千分一地形図 附一万分一〕	昭和30年3月現在	印刷兼発行者 建 設省地理調査所	元売捌店 日本地図共販 (株)／(株)ぶよお堂／内 外地図(株)		46.2×57.7
2-26	地理調査所発行 地図一覽図 五十分分一地形図／五十分分一地方 図／二十万分一地勢図 〔二万五千分一地形図 附一万分一〕	昭和32年3月現在	印刷兼発行者 建 設省地理調査所			46.4×58.5
2-27	地理調査所発行地図一覽図 五十分分一地形図／五十分分一地方 図／二十万分一地勢図／一万分一 〔二万五千分一地形図〕	昭和34年8月現在	印刷兼発行者 建 設省地理調査所	発売元 内外地図(株)		54.0×76.5
2-28	国土地理院発行地図一覽図 五十分分一地形図／五十分分一地方 図／二十万分一地勢図／一万分一 〔二万五千分一地形図〕	昭和37年8月現在	印刷兼発行者 建 設省国土地理院			44.0×62.5

2-29	建設省国土地理院発行全国地図目録 五万分一地形図／五十万分一地方図 〔二万五千分一地形図／一万分一〕	昭和37年7月現在				45.3 × 59.3
2-30	国土地理院発行地図一覧図 五万分一地形図／二十万分一地勢図／一万分一地形図 〔二万五千分一地形図／五十万分一図〕	昭和38年3月現在	印刷兼発行者 建設省国土地理院	元売捌店 日本地図共販(株)／(株)武揚堂／内外地図(株)		46.2 × 57.9
2-31	国土地理院発行地図一覧図 五万分一地形図／二十万分一地勢図／一万分一地形図 〔二万五千分一地形図／五十万分一図〕	昭和39年6月現在	印刷兼発行者 建設省国土地理院	発売元 内外地図(株)		46.3 × 58.1
2-32	国土地理院発行地図一覧図 五万分一地形図／二十万分一地勢図／一万分一地形図 〔二万五千分一地形図／五十万分一図〕	昭和41年4月1日現在	印刷兼発行者 建設省国土地理院	元売捌店 日本地図共販(株)／(株)武揚堂／内外地図(株) 国土基本図・国土基本写真図の取扱機関 (社)日本測量協会		46.0 × 57.6
2-33	空中写真フィルム保有区域一覧図	昭和42年7月現在(昭和42年度内完了予定分を含む)	建設省国土地理院			46.0 × 57.8
2-34	国土地理院発行地図一覧図 五万分一地形図／二十万分一地勢図／一万分一地形図 〔二万五千分一地形図／五十万分一図〕	昭和44年7月1日現在	印刷兼発行者 建設省国土地理院	発売元 内外地図(株)		44.2 × 62.2
2-35	国土地理院発行地図一覧図 五万分一地形図／二十万分一地勢図／一万分一地形図 〔二万五千分一地形図／五十万分一地方図〕	昭和45年7月現在	印刷兼発行者 建設省国土地理院	元売捌店 日本地図共販(株)／日本地図共販大阪出張所／日本地図共販九州営業所		45.7 × 58.5
2-36	国土地理院発行地図一覧図 五万分一地形図／二十万分一地勢図／一万分一地形図 〔二万五千分一地形図／五十万分一地方図〕	昭和46年10月現在	印刷兼発行者 建設省国土地理院			46.5 × 57.9
2-37	建設省国土地理院発行地図一覧図 五万分一地形図／五十万分一地方図 〔二万五千分一地形図／一万分一地形図〕	昭和47年4月現在		販売元 (株)武揚堂／販売代理店 上野 松坂屋		45.9 × 58.0
2-38	国土地理院発行地図一覧図 五万分一地形図／一万分一地形図／二十万分一地勢図 〔二万五千分一地形図／五十万分一地方図〕	昭和49年10月1日現在				58.0 × 45.9
2-39	国土地理院発行地図一覧図 五万分一地形図／一万分一地形図／二十万分一地勢図 〔二万五千分一地形図／五十万分一地方図〕	昭和50年4月1日現在				58.0 × 45.9
2-40	国土地理院発行地図一覧図 五万分一地形図／一万分一地形図／二十万分一地勢図 〔二万五千分一地形図／五十万分一地方図〕	昭和52年4月1日現在		発売元 (株)武揚堂		57.6 × 45.9

註:〔 〕は裏面に記載されていた事項